

ハヤブサ(ハヤブサ科) 全長 オス38cm メス51cm

大仙市内でハヤブサの繁殖地が2か所で確認されているが、県南地域で見ついているのはここだけです。

大曲のハヤブサは子育てしている様子がなく、残念ながら今年も繁殖は出来なかったようです。



岩場の上から雛を見守る(メス)

もう1か所の中仙では、元気に巣立った2羽の雛が見つかりました。

「キーキー、キーツ」と甲高い雛の鳴き声が響き渡ります。親から餌をもらう催促でしょうか。



オスから受け取った餌を雛に運ぶ。



岩陰から姿を現した雛。まだ頭や背中には綿毛(めんもう)が残っています。

1羽は6月1日に、もう1羽は翌日に巣立ちました。(巣立ち後は幼鳥と呼ばれます。)2羽が並んでいるのを見ると片方が大きく見えますが、1日早く巣立ったほうでしょう。



今にも飛び立ちそうな羽ばたきの練習です。



親（メス）が岩場から飛び立ちます。

大空を颯爽と飛び回るにはまだまだですが、岩壁から向こうの岩場までには簡単に移動しています。親鳥（メス）は岩場の頂上から子供たちを見守っていました。主に狩はオスが行い、岩場に運んできた餌はメスに渡します。



頭の両側に見える黒い頬髯と、体の横縞が美しい。



巣立ち後、2羽は近くの岩場で親の運ぶ餌を待っていました。だいぶ遅く見えます。

上空を飛び回る親鳥を見つけると、子供たちはいち早く餌をもらうために甲高い鳴き声をあげながら親鳥の後を追いかけてきました。ほぼ親鳥と同じ位までに育ち元気に飛び回っている様子から、まもなく親元を離れて独り立ちすることでしょう。